

学生の提言書に対する大学の正式回答

2022年2月7日

■ はじめに

『学生の声 提言書』は、教学・学生生活にかかわり幅広く、深い提案がなされています。学生のみなさんが、APUでの学びと学生生活を充実、発展させるため、真剣に考えて行動を起こしてくださったことに感謝します。

今回、提案していただいた内容について、授業や教育にかかわる点は、教学部およびAPS/APMの各学部で検討を行いました。学生生活全般にかかわる点は、学生部および大学・APU生活協同組合で検討を行いました。複数の部署にかかわる点は、それぞれの部局での検討をもちより、集約しました。そして、教職員個人にかかわる点は、教員懇談会で教員全体および各部署の職員の代表者に学生の状況を周知し、提言書にもとづいた改善の検討を要請しました。APUの構成員一人ひとりが本文書に目を通し、よりよい大学づくりを真に考える一布石になることを願います。

<本文書で登場する「改善要望率」の定義>

各提言題目に対する（アンケート i）の回答中の「強く賛同する」割合と「賛同する」割合の合計値、**[**%]**は提言 a, b,..に対する（アンケート ii）の高々93件の回答中の「賛同」の割合
（なお、アンケート i iiについては、提言書「本プロジェクトの調査概要」を参照のこと）

■ 大学に対する学生からの提言の主題目と関連部署

I. Academic Aspects (Class Depth, classes, curriculum, etc.)

- 提言 I-1 優先登録制度 （改善要望率：67%）
- 提言 I-2 学習支援（授業関連&その他） （改善要望率：アンケート i）でのデータは無し）
- 提言 I-3 グループワーク （改善要望率：66%）
- 提言 I-4 成績評価方法 （改善要望率：69%）
- 提言 I-5 授業の学問的・学術的な水準(1) （改善要望率：68%）
- 提言 I-6 授業の学問的・学術的な水準(2) （改善要望率：68%）
- 提言 I-7 時間割 （「昼休みがほしい」への改善要望率：72%）

II. Learning Support Services

- 提言 II-1 ITサポートサービス （改善要望率：下表参照）
- 提言 II-2 オンライン授業 （「オンライン授業の継続」への改善要望率：76%）
- 提言 II-3 APUでの学習支援サービス （既存サービスの学生利用頻度：提言本文を参照のこと）

III. Facility (Cafeteria)

- 提言 III-1 カフェテリア （改善要望率：54%）

IV. International and Educational Exchange

- 提言 IV-1 国際交流 （改善要望率：72%）
- 提言 IV-2 国内交流 （改善要望率：74%）

V. Counseling and Student Services

- 提言 V-1 メンタルヘルスサービス （改善要望率：50%）

[表] 各提言に主として関連する部署等

	学生部	教学部	各学部 (APS/APM)	生協	アドミニストレー ション・オフィス	教職員個人
I-1		●				
I-2	●	●	●			●
I-3		●				●
I-4		●				●
I-5		●	●			●
I-6		●	●			●
I-7	●	●	●	●	●	●
II-1		●				●
II-2		●				
II-3		●				
III-1				●	●	
IV-1	●	●				
IV-2	●					
V-1	●					

■ 提言書に対する大学の回答

ここでは、各提言に対する大学の回答を記します。

I. Academic Aspects (Class Depth, classes, curriculum, etc.)

提言 I-1 優先登録制度 (改善要望率：67%) **教学部関連**

履修登録方法と学習機会が学生に対し公正に与えられていないことについて

a. 優先登録システムを GPA 基準から学年(semester)基準に変更する [59%]

回答 「優先登録制度」は APU で学ぶ学生の積極的な学びを奨励するために設置された制度であり、提言にあったような需要と供給のバランスを前提とした制度ではありません。「優先登録制度」は APU で学ぶ学生が在学期間中に継続的に高い意欲を持ちながら学びを進める上で重要な制度であり、学習への向き合い次第で今回の提言にあったような「不公平」は改善することが可能です。

なお、APU での学習に困難を感じている学生に対しては、教職員がアドバイスをを行うアカデミック・アドバイザー、アカデミックなライティング力を向上するためのライティング・センター、言語学習のサポートを行う SALC、数学についてのサポートを行う AMC 等がありますので、これらを積極的に活用してください。

b. より多くのクラスを提供する (クラス増) [91%]

回答 前述の通り、「優先登録制度」は APU で学ぶ学生の積極的な学びを奨励するために設置された制度であり、提言にあったような需要と供給のバランスを前提とした制度ではありません。加えて、より多くのクラスを提供するためにはより多くの教員を手配することが必要であり、教員人件費の増加につながり、

大学財政の圧迫につながります。また、地方に位置する APU では、従来以上に非常勤の教員を確保することは容易ではありません。

c. 抽選による登録制度の実現[34%]

回答 一部の科目については需要が極端に集中し、優先登録 I となっている学生であっても履修することが困難となっている側面がありますので、今回の提言にもあるようにこれらの科目については抽選とすることなどを含めて制度の改善を進めていきます。

d. 英語基準学生に対して反対言語基準科目の履修条件を日本語基準学生と同等に設ける [67%]

回答 APU では開学理念や人材育成目的に基づき、カリキュラムを設計し、卒業要件を設定しています。APU のように入学基準言語が異なる学生が存在し、入学基準言語によって定められた卒業要件が異なることは当然のことであり、そもそも公平・不公平という観点から議論すべき性格のものではありません。英語基準学生にも日本語の履修を義務付けるということは、APU が目指す人材育成目的などを踏まえ、必要であればカリキュラムに反映することは可能ですが、履修登録制度の改善を目的として卒業要件を変更すること自体は教育機関として不適切であると考えています。

提言 1-2 学習支援（授業関連&その他）（改善要望率：アンケート i）でのデータは無し）**教学部・学生部・各学部・教職員個人関連**

APU での学習・生活全般の枠組みの中で学生の声が十分に反映されていないこと（大学側の学生対応が遅い、コミュニケーションが円滑でない、国際学生へのサポート不足など）について

a. 大学と学生との橋渡し役として、現役学生と卒業生で構成される学生会と同等の仕組みを構築する [94%]

回答 2022 年度以降も「学生の声プロジェクト」と同様の仕組みを継続、改修し、在学生と大学の間で話し合いの場を定期的にもちつつ、よりよいシステムづくりを学生とともに目指します。

回答の詳細

(1) 学生会と同等の仕組みを構築すること（提言 a.）に対して

学生会は、学生のみなさんが設立をしたいと考え、学生どうしが対話を続けて、提案があれば、学生部を窓口として、サポートを行います。ただし、大学が学生会のような学生組織を支援する場合は、教育的な観点すなわち大学での学びに通じる観点をもって支援したいと考えますので、この意味で卒業生は支援の対象としません。大学として大切だと考えていることは、すべての学生が同等の権利を持ち、一人ひとりの学びや学生生活が充実することにつながるようにすることです。そして、学びの主人公として学生が大学づくりに参加できるようにすることです。世界中の大学には、様々な運営形態の自治組織があります。また、大学の組織構成員として大学の運営に意見を述べる学生評議会のようなものもあります。APU にとって、どのようにすれば、学生一人ひとりが大学運営に参加できるか、引き続き、学生のみなさんとともに考えて、実践していきます。

なお、学生の意見を APU の運営に反映するための大学の取り組みとして、2020 年度から推進している、「学生の声をきくシステム構築」があります。これまでの経過概要は次の通りです。

<2020 年度>

学生部によるパイロット調査として、学生に対し APU について意見を書いてもらうサーベイを行いました。

学生部はさらに、パイロット調査に参加した学生、課外自主活動に取り組む学生のみなさんと懇談会を行い、取り組みを継続することとしました。

<2021 年度>

大学が学生の声をきくためのシステムを構築すべく、その実装プロジェクトとして、学生部が有志の学生を募集し、「学生の声プロジェクト」を立ち上げました（募集対象者は全学部生）。プロジェクト学生は、全学生を対象にアンケート作成・収集をし、データ分析・関連部局へのヒヤリングを行い、これらの調査をもとに提言書をまとめ、全学に公開しました。さらに、この提言書をもとに、12月・1月にプロジェクト学生と大学との間で懇談会が実施され、大学は提言書に対する公式回答（本文書）を文書化し、全学生へと公開しました。

そして、2022年度に向けて現在、以下の計画を練っています。

よりよい大学づくりを主な目標として：

- ・学生による主体的、自律的な行動を支援する（学生に対し大学はひらかれていることを理解されたい）
- ・支援を通し、学びにもつなげる（主体性・組織行動・協働・リーダーシップ・計画立案遂行・交渉・洞察・論理考察・論理記述・多角的考察・定量分析・定性分析・自制管理・他者尊重・多様性理解・他者受容・柔軟性・挑戦意欲・感謝心・自己反省改善などの観点から）
- ・学生と大学（教員や職員など）が話し合う機会（懇談会など）を定期的に設ける

これら3点を包括し実現するためには、一定のシステム（2021年度「学生の声プロジェクト」や学生会など）づくりが欠かせません。2021年度「学生の声プロジェクト」での知見と思想を継承しながら、2022年度も引き続き、全学生と大学を円滑かつ効果的に接続するためのよりよいシステムづくりを学生と話し合いながら進めます。

「学生の声をきくシステム」を実装するためのいくつかの具体例：

<2022 年度>

運用例 1：

2年を周期とする運営が、学生にとっても取り組みやすいのではないかと考えています。学生のプロジェクトとして、学生部が学生を募集し、運営のサポートを行います。

2021 年度（1 年目）

- ・アンケートを作成・収集し、分析を行う
- ・関連部局へのヒヤリングを行う
- ・提言書をまとめて大学へ提出する
- ・提言書にもとづく懇談、交渉を行い、学生が提言した論点を整理する

2022 年度（2 年目）

- ・大学との懇談、交渉の結果をふまえた論点を整理する
- ・前年度の提言書で十分に深めることができなかった点、継続課題となった点を整理し、各部局と協議・交渉を行う
- ・2年分のまとめ、到達点の確認を行う

運用例 2：

究極の目標は、学生部の支援無しに、学生たち自身が主体的に大学に対する提言をまとめ、建設的に交渉できるようになること（変革をもたらすこと）、さらにそのプロセスを通じて自律的に学ぶことです。この観点から、2022年度においては、2021年度よりもさらに学生の自律的な行動を主体とする形態に歩を進めることを考えて

います。学生部は必要に応じて学生を支援します。

- ・2021年度「学生の声プロジェクト」の学生メンバから「シニアメンバ」を募り、シニアメンバが2022年度の有志のメンバを広く募集して大学と協働するための組織づくりを主体的かつ自律的に行う
- ・学生部は学生と大学の間の懇談会を実施するための窓口となる

以下、提言書に書かれた学生からの要望に対して回答します。

(2) 「学生の声（希望や要望など）を踏まえてカリキュラムを策定してほしい」という学生要望に対して

【APS】

- 大学のカリキュラムについて、まずは学部創設の際に、当該学部は何を学ばせる学部とするかを考え、そこから考えられる学部のポリシーを策定した上で、それに見合ったカリキュラム構造をつくっていく。卒業時に学士を取得するという事は、当該学部のすべての課程を修了したことを意味する。大学のあらゆる学部は、何をもって修了とするかについての方針を立てるが、それをディプロマ・ポリシー（以下DP）と言う。学部の科目は、DPに沿って構成され、設定された卒業条件を遂行することで学士が付与されることになる。すなわち、当該学部では何を学ぶことができるかということは、入学前に確認することができるのだが、それを確認した上で、大学／学部を選択すべきである。学部は6年に一度、学生の声などを参考に問題点などを改善するためにカリキュラム改革をおこなうが、そこで設定されているカリキュラムは、DPから考えられた構造になっているために容易に変更することはできない。またそれらは外部に公開されているので、入学前にしっかりと確認すべきである。
- カリキュラムの変更を主張しているが、入学時のカリキュラムを変更することはできないが、6年に一度の改革の際には、学生の声の蓄積は少なからず反映している。
- ただ、「カリキュラム」という単語の解釈のずれがあるのかもしれない。仮に講義の質の向上を意味するのであれば、それは常に可能である。上記したようにカリキュラム構造の変更は難しいが（学生はそれを前提に入学しているので、それは享受されなければならない）、講義の質や、一講義の学生数の上限を少なくする、ゼミの方法を変更するなどの変更はできる。
- ここまで来て思うが、「カリキュラム」の策定とは何を意味するかを理解しているかが不明である。みなさんが、「カリキュラム」の策定という場合、何を意味しているのかをまずは教えて欲しい。そして特に具体的にどこをどうしたいかということを知りたい。できること、できないことがあり、できることは何であるかを知ってもらえると、私達は改善することを常に考えているので非常にありがたいが、報告内容からは推測ができなかった。どの学部のどこに問題があるかを、もう少し教えていただければ、大学をよくしていきたい、学部をよくしていきたいと改善を切に考えている私達にとっては、非常にありがたいことである。
- ちなみに、現在2023カリキュラム改革の進行中である。教員は毎週何度も会って、学部をどう改革して、いかに素晴らしい学部になれるか、現状の問題をいかに改善していけるかを常に議論し続けている。実はその改革の議論に入りたいということか。現在在籍中の学生たちにはその改革の恩恵を受けることができないが、まだ見ぬ後輩たちのために改革に参画したいという意見なのか。
- 2023年の新カリキュラムにおいては、3専攻領域全てにおける入門講座の必修を設定し、系統立った履修を促進することで、300番台の高度化への障壁を取り払った。
- 100番台必修入門科目の高度化についても、授業方法の改善の観点からTAを有効に活用した少人数双方向型の学びの実験を2022年度春セメスターより開始する。
- カリキュラム充実のため、特殊講義や外部講師の活用は始めている。リソースの許す範囲で特に外部の優

秀な研究者を招聘しての開講を行っていききたい。

【APM】

APM では現在、カリキュラム改革を進めています。学部長との対話（在学生・卒業生とのグループ・ディスカッション）、出口調査、授業評価調査、雇用者調査、業界レポート、ベンチマーク分析から得られたフィードバックとインプット、および学びの質保証に関する分析結果をAPM カリキュラムの改善に反映させています。新しいAPM カリキュラムは、2023 年春から開始予定です。APM カリキュラムの価値を革新し、豊かにし、学びの成功率を高め、卒業生や外部の関係者などのステークホルダーを巻き込みながら、最新で適切なカリキュラムを実現するためのアクションプランは以下の通りです。

- 学部としてのビジョン、ミッション、バリュー、学習成果、学習目標を再検討し、改訂します。
- 既存の科目を見直し、コンピテンシーベースの選択科目を新たに導入します。
- カリキュラム・マッピングを見直し、新しい学習成果、学習目標により合致するように修正します。
- 新しい専門分野アントレプレナーシップとオペレーションマネジメント(EOM)の科目を創設します。
- 学生の学習効果を高めるため、各専門分野で前提条件制度を設け、ラーニングマップを導入します。
- 各分野の入門科目を設け、プロジェクトベースの学習と同様の系統的学習を強化します。
- 各分野における提供科目の幅広さを均一にし、100-400番台にまたがるようにします。
- 共通ルーブリックを再検討・改訂し、学びのアセスメントに統合することを教員に奨励します。

提言 1-3 グループワーク （改善要望率：66%） 教学部・教員個人関連

グループワークにおける、言語の壁、オンラインでの実施、フリーライダー対策、評価方法について

- a. 言語の壁を減らす工夫をする（心得セッションの実施、個人課題とグループワークの組み合わせ） [72%]

回答 提言されているようなやり方も選択肢として考えられますが、グループワークの在り方については配当回生・学習内容等によって様々であり、画一的なやり方で改善することは難しいと考えています。先生方は授業改善に関わる取組（Faculty Development (FD)）等を通じて継続的にグループワークの改善に取り組んでいます。言語基準が異なる学生同士でも言語の壁を超えてグループワークが行えるように、今後も先生方と授業改善に取り組んでいきます。

- b. グループワークを行う全ての講義で、相互評価制度を導入する [74%]

回答 前述した通り、グループワークの在り方については配当回生・学習内容等によって様々であり、画一的なやり方で改善することは難しく、先生方も日々FD 活動等を通じて改善に取り組んでいます。今回提案のあった相互評価制度については、教授会等において先生方と共有し、導入が可能な科目については先生方と相談して行きたいと思えます。

提言 1-4 成績評価方法 （改善要望率：69%） 教学部・教員個人関連

学習意欲の向上や学生自身による自己分析に繋がりにくい現在の成績評価制度とそのプロセスについて

- a. 成績の透明性を高める [97%]

回答 成績評価の透明性を高めるという点については、学生自身がどこを理解していなかったのか、何故間違ったのかを確認する上で極めて重要であると考えています。ただし、科目によって成績評価の方法や在り方は様々であり、一律に透明性を高める取組を実施することは容易ではありません。各科目において成績

評価の透明性を確保していくためには、各科目の担当の先生方が、どのタイミングでどのように成績評価を公開するかについて取り組む必要があります。これを実現するために、今回の提言内容とその背景については教授会等において先生方とも共有し、各科目において成績評価の透明性の確保に取り組んでもらうように大学としても促していきたいと思えます。

なお、各科目の担当教員による成績講評をアカデミック・オフィスの HP で公開しています。その中で、成績評価の基準、期末試験の回答の解説を行なっていますので、成績評価を確認してもらうことによって、成績の透明性が少し高まるのではないかと考えています。

- b. 成績問い合わせへの柔軟な対応をする（成績評価変更後、すみやかに GPA に反映させ、履修登録に不利益とならないようにする）[99%]

回答 成績問い合わせについては毎 Semester 400 件近い問い合わせが発生します。その中には成績問い合わせの理由として妥当なものだけでなく、「問い合わせをすればひょっとしたら成績が上がるかもしれない」「GPA を上げるために成績を見直してもらいたい」など、本来の成績問い合わせの趣旨に沿わない安易な問い合わせ理由も多く見られます。現在の成績問い合わせのフォームはこの様な安易な問い合わせを防ぐために作られたものであり、この提言に関わっては担当オフィスへのヒヤリングを行った上で、こういった実態を把握してから提言を行った方が良かった様に思われます。一方で前述した様に成績評価の透明性が高くなれば成績問い合わせ自体の件数も減ることが予想されますので、引き続き先生方と改善に取り組んでいきたいと思えます。

提言 1-5 授業の学問的・学術的な水準(1) (改善要望率：68%) 教学部・各学部・教員個人関連

教え方（スライドを読むだけ、一方的な講義など）、専門科目不足について（担当部局へのヒヤリング有）

- a. 講義の質向上のため、教員がシラバス作成の過程で学生の意見聴取を行う。実践的な学習の優先[78%]

回答 シラバス作成については、新任教員を対象とした FD 活動の一環として実施しているミネソタ大学との連携プログラムを通じて、研修を実施しています。また、各教員はシラバスの執筆にあたっては大学のガイドラインに基づき執筆することになっており、執筆内容については各学部・センターの責任者が確認をし、問題がある場合は、先生方に修正してもらっています。ただし、実際にシラバスを参照する学生がどのように感じているかを踏まえた上でガイドライン等を改訂していくことは大切であると考えていますので、シラバスに限らず学生の声を吸い上げる仕組みを構築し、よりよい大学づくりを進めていきたいと考えています。なお、具体案として挙がっている「理論よりも実践的な学習を優先する」という点については学問分野・科目によって考え方が異なりますので、この具体案が講義の質を高めるとは考えていません。

- b. 専門科目や主要科目の受講機会を増やすため、専門科目を担当できる教員を増やす[86%]

回答 現在 APU が提供している専門科目が不足しているという認識はなく、どのような根拠に基づき不足していると判断しているのか明示してもらいたいと思えます。また、専門科目を増やすことがどのように授業の学問的・学術的な水準の向上につながるのかを明示してもらえればと思えます。APU の科目は各学部・研究科の学位授与方針に基づき、カリキュラムを設計し、必要な科目を配置しています。幅広く学ぶことは大切ですが、交換留学をはじめとした学外で学びを深める経験も多くありますので、積極的にそういった機会を活用してくれることを期待しています。

c. 教員の指導方法を改善するため、特別・追加研修を行う[85%]

回答 前述した通り、APUはFD活動の一環として米国のミネソタ大学と協力の研修プログラムを実施しています。ミネソタ大学はその教育力で高い評価を受けており、当該プログラムを受講した専任教員は全体の約50%となっています。また、APUではその多文化環境を最大限に活用しつつ、双方向型でアクティブな学びを実現するために多文化協働学修を実践しています。シラバス項目にも「多文化協働学修の実施形態」を記入する欄が設けられており、ほぼすべての科目で入力されています。

以下、提言書に書かれた学生からの要望に対して回答します。

「特論講義（特殊講義など、特定のトピックに内容を特化し深化させる形式の授業[ゼミではない]）や専門科目の種類を増やしてほしい」という学生要望に対して

【APS】

- カリキュラム充実のため、特殊講義や外部講師の活用は始めている。リソースの許す範囲で特に外部の優秀な研究者を招聘しての開講を行っていく予定である。
- 特殊講義ということばで、何を意味しているのかがわかりにくい。アンケートから類推するに、講義の質が低い、おもしろくないので、専門的に特化した講義が聞きたいということに尽きるのか。それについては学部執行部も常に考え続けている。どのようにしたら現行の教員構成によって全体的により高度で、興味深い講義にすることが可能か。大学という高等教育機関かつ研究機関において学生に知的刺激をいかに与えることができるかというのは、最も重要な問題としてその対策を日々考えている。
- ただ、問題は、大学での学びは与えられるものではない。学生自ら学び取るものだ。受動的態度は大学において期待される姿勢ではないということ。学生は常に知的好奇心と知的アンテナを張って、自律的に自ら勉強／研究するところが大学であるということも覚えておいて欲しい。講義の質の向上を訴えて、不満を先行させることだけではなく、大学生の姿勢の原点に戻ることも同時に必要である。

【APM】

カリキュラム改革の一環で、各専門分野において以下の科目を更新・追加しました。

- 必修科目： 1) 組織行動論, 2) ビジネスエシックスと社会的責任
- 「会計・ファイナンス」分野： 1) 租税法, 2) ファイナンスとテクノロジー, 3) 投資分析とポートフォリオ・マネジメント, 4) 管理会計論
- 「マーケティング」分野： 1) 価格戦略, 2) デジタルマーケティング, 3) デジタル社会のブランドマネジメント
- 「経営戦略と組織」分野： 1) レスポンシブル・リーダーシップ, 2) 人的資源管理論
- 「アントレプレナーシップ・オペレーションマネジメント」分野： 1) ベンチャーアントレプレナーシップ, 2) デザイン思考とイノベーション, 3) 上級ベンチャーアントレプレナーシップ 4) イノベーションマネジメント, 5) 戦略的プロジェクトマネジメント, 6) デジタルビジネストランスフォーメーションのマネジメント, 7) ソーシャルアントレプレナーシップとチェンジメーカー
- APM 共通： 1) リサーチのデザインと方法, 2) ビジネスデータ分析

提言 | 6 授業の学問的・学術的な水準(2) (改善要望率：68%) 教学部・各学部・教員個人関連

一定の学生が専門性の深化や高度化、新しい学びに前向きであり、低回生でも 200 番台、300 番台の科目を履修したいと考えていること（及び担当部局へのヒヤリング）を踏まえて

- a. 授業評価アンケートの自由記述欄・現在非表示となっている 6 項目の結果を公開する

回答の詳細

(1) 授業評価アンケートの結果については、大学で集計の上、自由記述の内容も含め全て先生方に返却していません。また、集計結果については所属長とも共有し、所属長が先生方との面談において活用しており、アンケート結果を踏まえて先生方が更なる授業改善に取り組む仕組みになっています。所属長は授業評価アンケートの自由記述欄の内容にも目を通し、問題があれば直接面談において指導を行っています。また、各学部に対しては、学修分野ごとの科目の集計結果を主任の先生方に返却し、学修分野単位でも授業改善に取り組む仕組みを作っています。授業評価アンケートの公表については、学生が履修する科目を検討するにあたり、過去の受講生がどのように評価しているかを踏まえ、自分の学びのスタイルや学びたい内容に合致しているかを確認するために公表をしています。しかしながら、アンケート項目によっては、学生の安易な履修登録に繋がる可能性があるため現在は非公開としていますが、今回の提言内容については教授会等において先生方と共有し、非公開となっている項目の公開について協議したいと思います。

(2) 「回生とは無関係に 200, 300 番台の科目を登録できるようにしてほしい」という学生要望に対して

【APS】

- 1・2 回生の 200,300 番台講座履修については、系統履修の担保と 200・300 番台の講座の開放は相容れない。代わりに 100 番台教養科目の充実は、2023 年カリキュラムで行われている。3 学修分野における入門必修科目についても、それぞれに 2 つの選択を組み込み、カリキュラム全体の多様性の確保にも努めている。
- ただ、これについても、**提言 1-5** の回答(2)「要望」と同様、講義の質の低さの指摘と受け止めることができる。PPT を読むだけの講義名を実際に教えて欲しい。簡単すぎる、つまらない、専門性がない講義名を教えて欲しい。難しいという不満ならば、学生の努力不足も考えられるが、簡単すぎてつまらないというのは大学の講義としてはふさわしくない。ただ担当教員も気づいていない可能性があるため、その指摘はすべきである。
- 上記したように、2023 カリキュラム改革では系統履修をかなり強化しているが、2017 カリキュラムは、たしかに番台の調整がなされていない可能性がある。教員の講義を見学した上で内容を検討し、限界はあるが、できるだけ講義の質についての改善を進めたいと思う。
- 授業が簡単すぎるという指摘は、さらにデータを読み込むと、4 回生に向けて高まり、5 回生以上では大きく減っていることが見える。300 番台授業の内容の高度化が優先順位第 1 位と思われる。多くの教員から、「入門レベルの前提科目を置かないカリキュラム編成のため（2017 カリキュラム）300 番台においても基礎的な内容を繰り返さざるを得ず、授業内容の高度化の妨げとなっている」との声が出ている。2023 新カリキュラムにおいては、3 専攻領域全てにおける入門講座の必修を設定し、系統立った履修を促進することで、300 番台の高度化への障壁を取り払った。

【APM】

カリキュラム改革の一環で、学生の学習効果を高めるために各専門分野でラーニングマップを導入し、科目履

修に必要な前提条件制度を設けます。この前提条件によって、学生は一定の予備知識を備えて次の科目を履修できるように、学習面での安心感や自信につながるとともに、APMカリキュラムにおける系統的学習が強化され、結果として深い学びと高い学習成果が得られることが期待されます。さらに、各分野に対して入門コースを設け、プロジェクトベースの学習と同様の系統的学習を強化する予定です。すなわち、100 番台コースでビジネスとマネジメントの知識・概念・スキルに触れ、200 番台コースでそれらの学習を強化し、300、400番台コースで学習目標に到達させ、実際に応用できるようにする予定です。成績優秀者が早期に上級コースを受講できるような枠組みも前向きに検討しています。

提言 1-7 時間割（「昼休みがほしい」への改善要望率：72%）**教学部・学生部・各学部・アドミニ・生協・教職員個人関連**

低回生の授業数の多さ、休み時間不足による集中力の欠如や健康への悪影響、課外活動時間の確保、コロナ禍での安全な食事、に関する意見（及び担当部局へのヒヤリング）を踏まえて

- a. 空き教室を利用し、ハウスコープのような売店および食事をするためのスペースをいくつか設ける [85%]
- b. 先生方に授業方法を工夫していただく [82%]

回答の詳細

(1) APU では開学以来、昼休みのない連続時間割で授業を行ってきました。その理由としては以下のような理由が挙げられます。

- ① 大学設置基準で定められた授業時間数を確保する必要があること
- ② APU の立地条件を考慮すると、遅い時間まで授業を行うと授業以外の活動（正課外活動やアルバイトなど）に影響が出ること

①にあるように大学として単位を授与するためには、定められた授業時間で授業を実施することが定められていますので、1 科目あたりに決められた授業回数や 1 講義あたりの授業時間は大学設置基準に基づき決定しています。この定められた授業回数と授業時間を確保しつつ、各大学で時間割を決定するわけですが、②にあるように APU は山の上に立地していることもあり、学生の皆さんが生活している別府市内との往復に一定の時間を要します。昼休みを確保する場合、現在の時間割では 6 限目の終了時間が 20 時を過ぎることになり、正課外活動やアルバイトを行うことが難しくなります。特にアルバイトについては私立大学である APU へ通学するために必要不可欠な学生が多くいます。また、大学で授与される単位は、講義の授業時間数だけでなく、授業の予復習を行うことが前提になっていますので、授業外で学習する時間についても確保する必要があります。一方、キャンパスでの授業が 2022 年 4 月から本格的に再開されますが、コロナ禍において、換気、消毒、手洗いなどの感染対策を休憩時間 10 分、昼休み 15 分で十分にできるのかについて、現実的な検討も必要と考えます。

今回の提言の中で、昼休みを確保するために水曜日を活用するという提言もありましたが、水曜日は海外派遣プログラムをはじめとした多くのガイダンスや事前・事後授業が行われています。海外での学習は APU における学びの特徴の一つであり、多くの学生が参加しています。水曜日はこのようなガイダンスや事前・事後授業を行うために確保しておくことが重要であると大学としては考えています。また、前述したように私立大学である APU に通うためにアルバイトが必要な学生数がアルバイトのためにまとまった時間を確保できるという側面からも水曜日に多くの授業を実施しないことは重要であると考えています。

限られた時間の中で、学生の皆さんに栄養バランス等も考えながら楽しく昼食を取ってもらうために改善に取り組みたいと思います。具体的には、カフェテリア以外で昼食を取れるスペースの拡充と学食以外の移動型販売

店の積極的誘致については今後早い段階で実現していきたいと考えています。さらに、授業時間を遵守する点については先生方にも呼びかけを行っていききたいと思います。

なお、2021年7月に実施した全学生アンケートでは、休み時間に関連して、心を落ち着かせるための時間が必要であるという意見がありました。APUでは瞑想・読書・考え事・他人の迷惑にならない範囲の宗教的お祈りなど様々な目的で利用できるクワイエット・スペースをスチューデント・ユニオン I (E棟・カフェテリアのある棟)の2階に設置しており、学生IDまたは教職員IDがあればスチューデント・オフィスの許可なく短時間でもスムーズに利用できます。これは新入生ガイダンス・新任教職員研修・APUのウェブサイトでお知らせしています。詳しくはこちら：<https://www.apu.ac.jp/studentsupport/page/content0335.html/>

以下、提言書に書かれた学生からの要望に対して回答します。

(2)「昼休み時間を学生が確保できるようなカリキュラム（教育プログラム）上の工夫をしてほしい」という学生要望に対して

【APS】

- DXを活用した大学間教育交流は、時差を逆手に取ったオンライン講座履修の試みはありうる。従来の6限までの枠を超えた履修形態を組み入れることで（たとえば0限、7限など）、昼食時間の確保にも柔軟性が生まれることが期待できる。
- ただやはり時間割の時間設定については、学部からの回答には限界がある。これは教学部事案であるし、全学的な問題でもある。ただ、科目の時間割上での割り振りを再検討し、3限設定科目を少なくする、あるいは学部科目が昼に連続しないようにできるのかについて、アカデミック・オフィスに相談する。

【APM】

授業の影響で昼食がとれないという課題については前向きに検討したい課題のひとつです。学生の感じる問題が教員にも影響を与えることは十分に理解しています。カフェテリアの運営に支障が出ないような、1日に少なくとも1回は休憩時限が取れるような時間割を組むことを学生にアドバイスしていきたいと考えています。

II. Learning Support Services

提言 II-1 ITサポートサービス （改善要望率：下表参照） **教学部・教員個人関連**

manaba（教員による利用法など）、キャンパス・ターミナル（必要な情報がわかりにくいなど）、シラバス（検索しづらい、更新が遅いなど）について

	manaba	キャンパス・ターミナル	シラバス
改善要望率	40%	64%	73%
a. ITサービスの修正	<ul style="list-style-type: none"> ・終了したコースの削除 ・教員、TAの連絡先表示 	<ul style="list-style-type: none"> ・UI改善 ・再ログインまでの時間延長 ・取消メール扱い変更 	<ul style="list-style-type: none"> ・検索方法改善 ・更新頻度をあげる
b. ITサービスの機能追加	<ul style="list-style-type: none"> ・期限、締切り通知 ・講義のカテゴリ化（フォルダ設定） 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報のカテゴリ化 ・ピンやお気に入り機能の追加 ・必要な情報のみ通知／不要メール削除の機能 	
c. ITサービスの利用統一	<ul style="list-style-type: none"> ・終了した講義の取扱い 		

回答の詳細

① manaba について

「manaba」のような Learning Management System (LMS) は大学で学ぶ上で重要なツールであり、大学としても実際に使用する先生や学生の皆さんにとって使いやすだけでなく、学びの質を高めるものでなければならぬと考えています。「manaba」は 2016 年度に導入し、先生方からも改善点等について意見をいただいています。現在、実際に授業を担当されている先生方と一緒に「manaba」の次の LMS を選定する作業に入っていますので、今回の提言内容も十分踏まえた上で、新しい LMS を選定したいと思います。

② キャンパス・ターミナルについて

キャンパス・ターミナルについては、User Interface が見にくいなどの意見が学生アンケートにも多く出ており、大学としても重く受け止めています。キャンパス・ターミナルは大学が学生に連絡を行う上で重要なポータルであり、このようなポータルが有効に機能するためには、使いやすく、見やすいことが重要です。今回の提言を受け、大学として新たな新たなポータルシステムの導入を含め、改善に向けた検討を進めていきたいと思っています。

提言 II-2 オンライン授業（「オンライン授業の継続」への改善要望率：76%）**教学部関連**

個々の学生の環境や状況（就職活動、体調不良、集中力維持、活気など）に応じて、学ぶ場所や方法の選択肢を大学が増やすことでより多くの人に学ぶ機会を提供でき、学生も効率的に学べることから

a. オンライン授業を選択できるようにする

回答 APU 学生の多くは「世界中から集まった学生と大学生活を送る」ことを期待して APU への入学を決意したと思います。「世界中から集まった学生と大学生活を送る」ことは APU キャンパスで大学生活を送ることを前提としており、授業についても教室で受けることを前提としています。コロナ禍により、従来の様な対面での授業は、現在は難しい状況にありますが、APU の最大の特徴は世界中から集まった学生がキャンパスで大学生活を送ることであり、大学としては可能な限り早く以前の様な活気あるキャンパスに戻りたいと考えています。一方でコロナ禍によりオンラインで授業を受講することになりましたが、大学としてはオンラインの大きな可能性についても重視しています。例えば従来であればセッション期間中にしか来てもらえなかった海外の大学の先生にもオンラインであれば授業を行ってもらうことが可能となり、交換留学の様な一部のプログラムにおいてのみ可能であった他大学の学生と一緒に学ぶ機会もオンラインで授業を行うことが可能となります。

b. オンデマンド授業を取り入れる

回答 オンデマンド型の授業については、事前に録画された講義を視聴した上でグループワークなどを行えば従来よりも高い学習効果が得られることが期待できます。大学としては APU の最大の特徴である多文化キャンパスでの学びを今後の APU での学びの基本としつつも、この様なオンラインを活用した様々な学びの形態も取り入れて行く予定としています。

提言 II-3 APU での学習支援サービス（既存サービスの学生利用頻度：提言本文を参照のこと）

学生にとって、既存サービスを利活用するための体系的かつ一貫したアプローチができていないこと、利用の動機不足、サービスが統一されていないこと、について **教学部関連**

- a. 学習支援サービスと学生ソーシャルメディア・ユニット(SMU)とのコラボレーション[87%]
- b. アクセス方法とサービスの内容を周知するウェブページの作成[94%]
- c. 教職員と協力した学習支援サービスの利用奨励[95%]

回答 大学では様々な Learning Support Services を準備していますが、利用者が一部の学生に限られていることは大きな課題と考えています。今回の提言内容にあるように、学生スタッフとも協力し、より有効な広報の方法を考えていきたいと考えています。また、先生方とも協力し、授業等においても Learning Support Services の活用を促していきたいと思えます。

III. Facility (Cafeteria)

提言 III-1 カフェテリア (改善要望率：54%) **生協・アドミニ関連**

「学生が健康的な食事を取れているか」という包括的な視点（及び担当部局へのヒヤリング）から

- a. カフェテリアやアドミニストレーション・オフィスは、APU CO-OP のショップの取り組み例を参考に、学生のニーズを聞き入れる仕組みを設け、得られた意見やそれに対する回答を公開する

回答 APU-カフェテリアでも「わたしもひとこと」カードを導入します。

- b. APU CO-OP は、学生委員と協働して、上記提言 a の実施に際し得られた学生の意見を集約し、運営指針を策定する。自己の取り組みについての広報を強化し、既存の媒体（チラシ・生協ウェブサイトなど）に加え、キャンパス・ターミナル等の利用を通じて学生への周知を図る

回答 学生の要望を、組織として検討する運営とし、生協からの広報活動の強化をすすめます。

回答の詳細

(1) APU-カフェテリアでも、「わたしもひとこと」カードを導入します。

- ・学生のみなさんがメニューやサービスに対して、気軽に意見・要望を出せるように準備をすすめます。
- ・生協学生委員会のメンバも、ひとことカードの運営に参画し、学生目線の声を大切にします。
- ・ひとことカード掲示（見える化）により、より多くの方の共感を広げ、双方向コミュニケーションの活発化を目指します。
- ・これを機に、より一層、APU 生の生活を支え、要望にお応えできるようにすすめてまいります。

(2) 学生の要望を、組織として検討する運営とします。

- ・生協職員の都合だけで判断・検討するのではなく、学生の多様な要望、生活の様子を考慮できるように、生協学生委員会のメンバとも意見交換しながら運営します。（月 1 回程度）
- ・必要がある場合は、組合員の方も含めた「利用者懇談会」を企画します。
- ・先日は、ベジタリアンの国際生より、「カフェテリアで食べられるものが少ない」とのご意見をいただき、ベジブルカレーの試食会を開催し 1 月より提供しています。

(3) 生協からの広報活動の強化をすすめます。

- ・生協学生委員会からのインスタグラム等による、お得情報発信をすすめます。

- ・各種 SNS の機能も活用しながら、組合員が参加しやすく、情報を得やすい方法を検討します。
- ・緊急時や、長期休暇の営業時間の案内等は、キャンパス・ターミナルからの情報発信についても、今後調整をすすめます。

(4) F 棟内での弁当販売を再開しました。

- ・F 棟内の弁当販売の再開要望を受けて、F 棟内の販売を 11 月末より開始しています。
- ・水曜日のご利用は大変少ないため、月曜・火曜・木曜・金曜の 12:00~12:30 営業しており、1 日平均 25 名のご利用となっております。

(5) 食を通したウェルネス・サポートに取り組みます。

小鉢などを盛り込んだ取り合わせを提案するなど、「食育」の観点から啓発を試みています。カフェテリア店頭ポスターでの、「食べ合わせ提案」や、APU-COOP ホームページ内の「栄養士からのお便り」をご覧ください。

なお、提言書には明記されていませんでしたが、「施設・設備」に関する学生からの改善要望（アンケート i の設問 Q9.「その他、大学に届けたい声について」で得られた学生の声）に対して、次の通り回答します。

学生寮（AP ハウス）に関する回答の詳細

(1) 施設設備について

施設設備の経年劣化への対応として、①「大学全体の修繕計画」、②「大学寮の修繕計画」を策定し、必要な措置を行っています。例えば、2018 年度以降では、寮内の無線 LAN 化（居室内に Wifi ルーターの設置）や居室内の冷蔵庫の交換、マットレスの変更、共有キッチンの工事とテーブル・椅子の交換、共有シャワールームの水量・温度の改善などを大学寮の修繕計画として実施してきました。また、大学全体の修繕計画に基づき、毎年、棟単位の天井・外壁の修繕工事を行っています。

退寮後の居室清掃やメンテナンスにおいて、洗面シンクやトイレ、エアコン、ベッド、机、いす、冷蔵庫、窓サッシ、網戸、カーテンなどの点検を行っています。また、法定点検として、エアコンなどの空調機器、エレベーターの点検、火災報知器の点検なども実施しています。害虫対策の一環としては、緑地エリアの定期メンテナンスや害虫駆除の薬剤散布などの措置も実施しています。

このような措置は実施していますが、各対応の実施回数やその内容を改めて点検し、より効果的な対応措置が行えるよう留意したいと思います。また、各建屋の掃除機については、設置数を増強させ、寮生のみなさんの利便性向上に努めたいと思います。

(2) 入寮希望について

学生寮の収容数は最大で 1,300 名程度です。そのうち、RA（レジデントアシスタント）が約 70 名、新入生の国際学生が約 660 名となります。国際学生は自国から日本の住居を確保することが困難であり、かつ日本での生活習慣やルールの理解、生活上の最低限の日本語修得など日本での生活に適應するための時間や機会が必要であり、入寮を義務化せざるを得ません。結果的に、約 570 室程度の範囲で国内学生に向けて入寮の募集を行いますので、入寮希望が多数の場合、希望者全員は入寮できないこととなります。

しかしながら、2023 年度より、新たな寮を設置する予定であり、既存の AP ハウス 1・2 と新たな寮で国内学生の入寮希望者を受け入れることが可能となります。

(3) その他

寮生以外の寮の利用については、寮生は寮費を納めており、寮費を納めていない寮生以外の学生の寮施設の利用については、一定程度制限する必要があります。また、地震などの災害時における避難対応などを考慮すると、寮生の正確な把握が必要となり、寮生以外の学生が在寮することは望ましくないと考えています。

交流機会の創出については、RA によるフロア単位の交流企画や棟単位、寮全体単位での交流企画が開催されます。加えて、大学が「MIX 講座」として、寮生に対し、料理講座やピラティス、ヨガ講座などの交流企画を提供しています。現在、国際学生の入国・入寮がままならない状況であり、継続した感染症対策が必要な状況ではありますが、可能な限りでこのような交流企画を提供していきたいと考えています。

IV. International and Educational Exchange

提言 IV-1 国際交流 (改善要望率：72%) 教学部・学生部関連

コロナ禍の影響による交流機会の減少（関連プログラムの中止など）、留学奨学金などの支援不足、留学や国際交流に関する情報の周知不足について

- a. 言語パートナーシステムの創設（オリエンテーションの週に、各学生が1人または2人の国内・国際学生を紹介するプログラム）[92%]

回答 全学的な言語パートナーシステムの導入には運用上の問題点があり、実現の難しい状況ですが、代替案として、学生間の交流を促進するイベントや企画の中で、学生パートナーをマッチングするような仕組みを取り入れていくよう検討します。

- b. クラブ・サークル、学生の活動の可視化とアクセシビリティの向上[91%]

回答 学生が各クラブ・サークル団体とスムーズに連絡のとれる具体的な仕組みを検討しましたが、実態に即さない面があり、各団体の協力が必要であると考えます。

- c. 国際交流プログラムの説明会の工夫、奨学金の説明とのリンク[94%]

回答

現在でも既に多くの説明会等を開催していますが、今後の国際交流プログラムの説明会をオンラインで行うことを考慮し、説明会の内容は録画を行い、参加できなかった学生も説明会を視聴できるようにしたいと思います。

a.に対する回答の詳細

一般に、APU の強みである学生同士が混ざる機会の提供は大学としても重要であると考えています。この観点から、言語パートナーシステムは、反対言語を早期に修得し、学生どうしが助け合い、異なる文化を知る機会として、有効であると考えます。一方で、全学生に適用する場合は、言語パートナーシステムを希望しない学生も含まれることになり制度が形骸化しないための仕組みづくりが必要になるため慎重な検討が必要になります。仮に全学で実施しようとした場合、たしかにオリエンテーションの週で行うのは一理ありますが、この週はより優先度の高い他の取り組みが実施されるため、物理的な時間や場所の確保が困難な状況です。他方、上述の観点にもとづく一つの取り組み方として、入学後のスムーズな友人作りや大学生活への適用を促すため新入生を対象に、オリエンテーション期間中、学生ピア・サポートスタッフである FLAG による学生間の交流を促進するためのイベントを複数回実施しています。2021 年度の全新生に占める参加率は 20-40%程度であり、交流を希望する学生が参加できる余地はまだ十分にあると言えます。また、SALC (HP : <https://salc82.wixsite.com/apusalc>、Facebook : <https://www.facebook.com/apu.salc/>) では、国際学生 & 国内学生の交流を促進するためのイベントが

行われています。ほか、コロナ禍に（感染症対策の上で）実施された主な交流イベントは次の通りです。

<2021 年度>

フィットネス・ウェルネス講座、茶道、三味線、空手体験会などの対面イベント

<2022 年度>

APU 選抜プロジェクト B 型に採用された学生団体 APU Spirit week による学生交流イベント

(APU 生としてのエンゲージメント、メンタルヘルス、チームビルディングの向上と、活気あふれるキャンパスを目指した)

提言書に書かれた「言語の壁」を克服できるような交流の要望については、親和性の高いイベントや企画に効果的に組み込むよう検討します。その際、運用上の安全性（公共の場で交流するルールとする・個人情報保護の観点を重視するなど）も同時に考えます。

b.に対する回答の詳細

まず、活動の可視化については、大学に登録している学生のクラブ・サークル、プロジェクト活動、学生スタッフ活動の情報が 2020 年度からオンライン化 (<https://apu-online.jp/>) されており、各団体の活動の紹介だけでなく、最新情報や各団体の SNS なども確認できます。全学生に対して大学が系統的に提供可能な可視化の範囲を越えた、より具体的な活動の詳細については、学生個人が各団体に問い合わせることが的確であると考えます。

各団体へのアクセシビリティについては、クラブ・サークルの代表者、またはクラブ・サークルごとに APU メールアドレスを付与できないかと提言書の中で提案されていますが、管理すべき APU メールアドレスが増えることでクラブ・サークル団体の負担が増える懸念があります。また、多くの団体がすでに保有している SNS が大学ウェブサイトのサークル紹介ページ（上述の URL）に掲載されているため、学生は各団体に対し SNS を通して連絡を取り合っている現状もあります（各団体に所属する学生で構成された特認団体会議から学生部に対し大きな問題は報告されていません）。他方、個人のメールアドレスをインターネット上で秘匿して代表者とやりとりする方法として、すべての正課外活動に共通する（入部希望連絡を含む）問い合わせフォームを大学側が一元的に作成し、各課外活動の代表者（のメールアドレスなど）に自動通知する仕組みを検討しましたが、いざ実態を眺めると、団体・代表によっては大学のメールを見ない、代表者が変わっても大学に報告をしないとといったケースが多かったため、学生が身近に利用している SNS や団体メールに直接に連絡させた方が、レスポンスが早いのであろうと察し、団体側の都合（アクセシビリティ）を尊重している面もあります。いずれにしても、年度末のクラブ・サークル団体継続申請の審査の際に、各団体の代表者が団体への直通連絡先情報（常時利用のメールアドレスなど）を届け出るように必須化し、上述の問い合わせフォームの仕組みを視野に入れると同時に、各団体にも協力を要請します。

一般に、学生のみなさんの活動を、様々な切り口から取り上げて、大学の Web ページや SNS で発信していくことにより、学生の活動の認知度を国内外に広く周知していくことは APU の魅力を伝えるツールとして重要だと考えています。コロナ禍で、クラブ・サークル活動は余儀なく縮小、制限されましたが、2021 年度はオンラインによるサークル説明会を開催し、新入生への情報提供を行いました。今後も感染防止対策に留意しながら、課外活動の支援を行っていきます。

c.に対する回答の詳細

国際交流プログラムの説明会については水曜日を中心に定期的に開催し、各プログラムにおいて応募可能な奨

学金の情報についても提供しています。2021年度であれば、留学フェアを7回（春4回 秋3回）、留学カフェを17回（春9回 秋8回）、SALC合同イベント2回（春1回 秋1回）開催しています。

コロナ禍のため、現在はオンラインでの開催が中心となっており、コロナが終息するまでは引き続きオンラインでの開催が中心となると想定しています。現在でも既に多くの説明会等を開催していますが、今後の国際交流プログラムの説明会をオンラインで行うことを考慮し、説明会の内容は録画を行い、参加できなかった学生も説明会を視聴できるようにしたいと思います。録画で説明会の視聴が可能となることによって今回の提言にあるような異なった日時での開催は不要となると考えています。

また、国際交流プログラムについて個別質問や相談したい内容がある場合については、アカデミック・オフィスにて対面・オンラインで相談することが可能ですので、アカデミック・オフィスに相談してください。

一般に、留学プログラムや国際交流プログラムについて、学生にわかりやすく情報発信を行うことは、学生が4年間の学生生活を主体的に設計していくうえで重要なことです。その際、奨学金、インターンシップや就職・進路など、総合的な視点から学生への情報提供、アドバイスが行えるよう、実施にあたって、学生の実態や要望を把握しつつ、更なる工夫・改善を行います。

提言 IV-2 国内交流 （改善要望率：74%） 学生部関連

国内大学との学習・課外活動における学生間交流やコロナ禍で別府地域を含めた交流の不足から

a. ビーチの美化とBBQ[下記b.と合わせて92%]

b. ポーラーランチ[上記a.と合わせて92%]

回答 上記a.b.の企画のみならず、学生の皆さんによる交流企画案があれば、ぜひイベント・プロジェクト支援制度を活用してください。

回答の詳細

学生グループが発案したイベントや、取り組む期間が限定されたプロジェクトの支援を行っています。学生の皆さんの「やりたい」という気持ち、そして、ひとつの取り組みについて深く考え、実行する姿勢を応援します。詳細はウェブサイトをご覧ください (<https://www.apu.ac.jp/studentsupport/page/content0312.html/>)。

学生どうし、APUの教職員と学生、APU学生と市民とが交流できる機会をつくることは、学生がAPUを知る、日本を知る、別府を知る機会として大切です。コロナ禍であるため、別府市内の小学校、地域交流は、オンラインの形態で少しずつ継続しています。コロナ禍において、大学教育にかぎらず、オンラインでの取り組みが普及しました。これは、実際には、遠方で直接行き来することが難しい場合でも交流を深めるよい手段です。今後もこうした工夫は継続していきます。一方、対面での交流を望む声は大きく、感染対策を行いながら、APUとしてもそうした機会を増やしていきたいと考えています。APUには、SASという地域交流を推進する学生スタッフがあります。また、クラブ・サークル、学生プロジェクトで地域交流を行っている団体も多くあります。学生に十分に活動が周知され、参加機会を逃さないよう、広報の工夫を行います。また、イベントを支えるスタッフ育成、広報など学生の活動をよりわかりやすく知らせる取り組みを強化します。

V. Counseling and Student Services

提言 V-1 メンタルヘルスサービス （改善要望率：50%） 学生部関連

学生とカウンセラーとの間の言葉・文化の壁、サービスの提供と施設が不十分なこと、メンタルヘルスへの

意識が学内で低いこと、国際学生から改善要望が強いこと、および担当部局へのヒヤリングをふまえて

- a. 国際的なメンタルヘルス機関との連携[96%]
- b. カウンセリングサービスへのアクセス向上(A Pハウスとの連携)[98%]
- c. MeWe (学生団体) との協力[95%]
- d. 学生自身によるメンタルヘルスチェック(学生のメンタルヘルスへの意識向上)[96%]

回答 学生のみなさんが情報にアクセスし、気軽に相談できるよう、カウンセリングルームのホームページの改善を始め、わかりやすい情報発信の取り組みおよび、外部機関との連携の在り方を検討します。

回答の詳細

カウンセリングルームでは、日本語と英語でカウンセリングができる体制を整えています。また中国語で対応が可能な日もあります。過去には、韓国やマレーシア出身のカウンセラーが対応したこともあります。日本出身のカウンセラーに限定しているわけではありませんので、今後も外国籍のカウンセラーを積極的に検討します。

コロナ禍の前は、対面でのみカウンセリングを行っていましたが、現在はオンラインでの相談も受け付けています。(カウンセリングに関する法律は各国ごとに異なりますので、対面でしかカウンセリングを引き受けられない国もあります。)

相談者の時間を保障するため、カウンセリングは原則事前予約が必要ですが、予約をしていなくても(つまりウォークインでも)、枠に空きがあればカウンセリングを受けられます。カウンセリングの利用頻度に制限がある理由としては、多くの学生に相談の機会を平等に与えること、そして相談者を守るために一定の枠組みや制限が必要であるためです。時間や場所の制約があるからこそカウンセリングの時間が非日常の時間となり、守られた空間の中で安心して自己表現ができる状況を確保しています。このほか緊急の場合は、曜日や時間を問わず学生の対応を行っています。

APU 内には病院がありませんので、治療を必要とする場合はキャンパス外の病院にかかる必要があります。国際学生については、メディカルアシスタントサービスに加入していますので、電話で多言語による医療相談(病院紹介など)や受診時の通訳サービスも可能です(24時間365日対応可、対応言語18言語、電話番号:03-3811-8124)。心療内科・精神科については残念ながら大分県内には英語で受診できる病院がありませんので、大学から受診に付き添ったり、福岡県の病院を紹介したりすることもあります。

学生のみなさんは、コロナ禍で日常の学生生活を送ることができていません。日本への入国を待っている国際学生も多くいます。明確な原因がわからない、なんとなく不安、モチベーションが下がってきた、ストレスを感じているといったこともあるでしょう。カウンセリングルームを始め、身近な教員やスチューデント・オフィス、アカデミック・オフィス、ヘルスクリニックなどに気軽に相談してください。また、学生のウェルビーイング向上のためには、学内コミュニティで周囲とのつながりを持つことが重要であると考えます。それには課外活動や MeWe のような学生団体の活動も重要な役割を果たすと考えていますので、必要とする学生が居場所を見つけられるよう、引き続き学生活動をサポートしていきます。みなさんの定期健康診断の間診票には、悩みごとについての質問が含まれています。相談したいという希望を記入していた学生には、大学から連絡をしています。大学側でも、学生の様子を見守り誰かが変化に気づく仕組みを作りたいと考えています。学生のみなさんが情報にアクセスしやすいよう、気軽に相談できるよう、カウンセリングルームのホームページの改善を始め、わかりやすい情報発信の取り組みを行います。私たちは、深刻な状況になる前に予防することが重要だと考えています。心と身体の両方を含む“ヘルスリテラシー”向上のため、Web 通信やストレスマネジメントのイベントなど、情報発信に取り組みます。あわせて日本に在住する外国人向けの相談

窓口の情報、様々な国・地域におけるメンタルヘルスケアに役立つ情報収集、メンタルヘルスに関する国際機関との連携の可能性等も探っていきたいと思います。

以上